

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地
国立療養所 奄美和光園
電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和6年2月1日
(2024)

第132号

■表紙	1
■年頭に当たって	2～3
■創立80周年記念式典	4～7
■令和5年度 合同慰霊祭	8
■ふるさとお楽しみ便	9
■クリスマス会・イルミネーション	10
■ゆらいの郷改修整備工事について	11
■永年勤続表彰	12～13

■ベスト口演賞をいただきました	14
■施設訪問お礼の手紙	15
■第35回 ハンセン病コ・メディカル学術集会	16～17
■ハンセン病療養所介護員研修	18
■第2回 園内感染予防対策研修会	19
■消防訓練	20
■看護学校1年生基礎看護学実習を受け入れて	21
■NST News Letter	22～23
■診療統計・新人紹介	23
■人事異動・和光園日誌・編集後記	24

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます



年頭に当たって



国立療養所奄美和光園

園長 馬場 まゆみ

始めに令和6年元旦に発生した能登半島地震、そしてその救援物資輸送に向かう海上保安庁航空機と日本航空旅客機の衝突事故により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。そして復旧・復興に向けて尽力されている被災者の方々、支援者の方々をはじめ関係者の皆様に敬意を表します。

改めまして、令和6年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年12月中旬は大寒波により奄美でも寒い日が続きましたが、年末から寒気が緩み、元日は晴天に恵まれ、清々しい年の始まりを迎えることができました。暖かな日差しに誘われて行啓記念公園の緋寒桜も開花しました。皆様におかれましては、飛竜乗雲の一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。また今年は甲辰（きのえたつ）の年です。「甲」は物事の始まりを意味します。そして十二支の中では唯一架空の生き物である「辰（龍）」は水や海の神として祀られ、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものです。この2つの組み合わせである甲辰は「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」という縁起の良い意味があるそうです。園長を拝命してから3年目となる今年は、令和4年度から蒔いてきた種が芽吹き、成長し、より良い方向へ整っていく年となることを期待しております。

さて、令和元年12月に武漢から広がった新型コロナウイルス感染症は令和5年5

月に感染症法の5類となり、日々のニュースで感染者数が報告されなくなると、あたかも新型コロナウイルス感染症は撲滅されたかのような雰囲気となっておりますが、高齢の入所者が生活する療養所では、まだウイズコロナ時代を手探りで進んでいます。感染対策をとりながらショッピングや地域のイベントに出かけたり、療養所に外部の方をお招きしたり、少しずつ以前の生活を取り戻すことに努めましたが、コロナ禍の3年間で入所者の皆さんの加齢的变化は著しく、新しい生活（職員にとっては新しい生活支援）を模索することになりました。

おりしも令和5年は当園の創立80周年記念の年であり、入所者の皆さんにとって、一日一日がとても貴重な時間であることを肝に銘じ、すべての行事を「80周年にまつわる記念の行事」と捉えて準備いたしました。夏祭り、敬老祝賀会、慰霊祭を開催ののち、去る11月30日に創立80周年記念式典を挙行了いたしました。ご多忙の中ご列席賜りました関係機関の皆様にお礼申し上げますとともに、感染対策上お招きすることが叶わなかった関係者の皆様に紙面を借りてお詫び申し上げます。式典では、これからも当園を終の棲家として入所者の方々が安心して生活できるよう支援すること、そして今以上に地域に開かれた療養所を目指して歩みを進めることを誓いました。

昨年の年頭所感においても入所者の皆さんにお願いしたのですが、今年も「やりたいこと」を是非教えてください。当園においてライフサポート、ACP（アドバンスケアプランニング）や終活の取り組みは十分に根付いておりますが、「今、希望すること」や「穏やかな最期を迎えるための準備」などは時間とともに、そして体調とともに変化するものです。そして気持ちが揺れていることを教えていただくことも大

切なことです。奄美和光園が入所者の皆さんの終の棲家であるからこそ、様々な生活の場面において希望を叶えられるよう、引き続き職員一丸となってお手伝いいたします。

施設整備におきましては、昨年は不自由者棟の施設整備（屋上防水、空調・換気設備更新、浴室のリフォーム等）、管理棟・受電棟・汽缶棟・車庫の改修整備、福祉別館屋上防水工事、納骨堂の耐震対策、病棟浴室（皮膚科入院患者用）のリフォームなどが完了しました。入所者の皆さんが住み慣れた環境を残しつつ、安全に生活していただくための改修計画は今年も進めてまいります。直近では緊急避難道整備工事が行われます。災害発生時、迅速な垂直避難のためのエレベーターの設置も引き続き申請

してまいります。

関係機関の方々、地域の方々におかれましては、感染対策のためフリーパスでお立ち寄りいただくことができず心苦しく思っておりますが、事前にご連絡をいただくことで入所者の方々に安心して交流していただく機会が増えてきました。入所者の皆さんとの交流を通して、またホームページや広報紙等から当園の「今」を感じていただければ幸いです。そして一日も早く以前のように地域の方々と交流できる日が戻ることを願います。

入所者の皆さん、職員、ならびに関係者の皆様のご健康とご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。



鯉が滝を登ると龍になるという言い伝えがありますが、行啓記念公園のちょっとメタボな鯉たちは果たして？！

奄美和光園 創立80周年記念式典

国立療養所奄美和光園 24 代目事務長 瀬之口眞澄でございます。

去る令和5年11月30日(木)14時より当園講堂におきまして、創立80周年記念式典が無事執り行われたことを御報告申しあげます。

御来賓の皆様におかれましては、師走の迫る御多忙極まる中、当園の創立記念式典に御臨席賜りましたことを、紙面をお借りしまして、改めて、心より御礼を申しあげます。

誠にありがとうございました。

式典を挙行させていただくにあたり、思いおこせば、令和4年12月の当園管理診療会議におきまして、「令和5年は、奄美群島本土復帰70周年また当園にとって創立80周年、ダブルの記念イヤー」である旨周知し、記念事業(式典挙行並びに記念誌発刊)のキックオフを声高に宣言させていただきましたが、この原稿を書いているこの師走まで本当に、あっという間の1年だったように思います。

今から遡ること10年前の平成25年11月、当園の創立70周年記念は、地元住民の皆様、OB・OGの皆様含め、200人規模での式典・講演会・祝賀会を盛大に挙行されておりますが、今般の式典を計画するにあたり難渋した大きな点は、やはり感染対策上の問題でした。

本年、世の中がアフターコロナに一挙に舵をきり始めたとは言え、完全にその脅威が終息したわけでもなく、私どもの最大の使命である「入所者さんを守ること」に立ち返り、園として苦渋の決断をいたしました。

平素より当園を支えていただいている関係皆様、今般の80周年を楽しみにしておられた方々に対し、どこまでお声かけさせていただくかは、最も苦慮いたしましたところですが、当園としては、連日熟考に熟考を

重ねましたところ、誠に勝手ながら、地元住民の皆様、OB・OGの皆様を御招待することを断念、また本来であれば、全国ハンセン病療養所の要人皆様全てを御招待させていただくべきところ、こちらについても、お声かけを大幅に自重させていただいた次第でございます。まさに痛恨の思いがいたしました、何卒、斟酌の程、お願い申しあげます。

さて、式典を計画するにあたり、今回のプロジェクトは、年度またぎとなりました。

式典スタッフ皆様はもとより、特に今春の異動で新たに当園メンバーに加わっていただいた方々には、園の理念・運営方針を理解いただく事、御自身の当園のおける日常業務を確立させる事にプラスして、園の歴史を振り返っていただくこと、ひいては式典の意義に至るまで、理解・習熟いただくことになり、御苦勞をおかけすることになってしまいました。

記念事業の統括役を務めます私からも紙面をお借りし、「本当にありがとうございます」を申しあげたいと思います。

式典は、前述の70周年記念式典の華やかさには決して及ばぬものの、コンセプトを明確におくこととしました。

感染対策に重きをおく小規模の創立記念式典を計画するにあたり、何が私たちにできるか、すべきかを考えた時、「大切な入所者さんと園としての80歳の誕生を祝うこと」「支えていただく全ての皆様に感謝の気持ちを伝えること」「奄美大島の魅力を伝えること」この3本柱に決め、馬場園長、加納名誉園長のご助言をいただきながら、構想は徐々に出来上がっていきました。

式典の日が近づく11月を迎えた頃、職員皆の顔つきも変わりはじめ、緊張感が増していきます。

私ども事務局も、入所者さん、そして馬

場園長、加納名誉園長の、この式典への思いをかなえるべく、また職員皆に式典の一部始終を理解いただきたく、「式典 80 シナリオ（スタッフ用）～ 30 ページ構成～」を配布。それは改訂を繰り返し第四版まで達しました。

部下職員有志による心を込めた手作りの「式典しおり」は、本当に見事の一言につきました。出来上がった時の嬉しさは格別でした。

スタッフ編制を 20 のチームに細分化。御来賓皆様へ「受付での感謝の気持ちの伝え方」「御席にエスコートする段取りの構想」「そのセリフ設定」の細部に至るまで、各チームの準備の奮闘ぶりには、まさに頭が下がる思いでした。

斯くして迎えた式典の日。奄美の天気予報は、気まぐれとは分かっていたものの、朝から、あいにくの雨模様。入所者皆さん、御来賓皆様へのおもてなしが、きちんと出来るだろうか？歴史を刻む、この式は、シームレスに円滑にいくだろうか？奄美の魅力を伝えることが果たしてできるだろうか？

統括役兼司会者の私としては、皆の前では「落ち着いて！」「大丈夫だから！」「しっかりやるよ！」と、3 回実施した予行練習で平静を装いつつも、自身の元来の心配性も相まって、実は、一番緊張していたのは、私だったのです。（時効です）

完全な杞憂でした。天気も持ち直し、式典は全ての皆様のおかげで流れていきました。馬場園長の式辞に始まり、厚生労働省お二方の課長様によるお祝いの御言葉、県大島支庁長様、奄美市長様、全国ハンセン病療養所施設長協議会会長をお務めになる国立療養所栗生楽泉園園長先生、そして、全国ハンセン病療養所入所者協議会会長様から温かい御祝辞を舞台上から頂戴いたしました。

そして式は余興に入りました。当園元職員の松元絹代様、三味線ご担当の丸田義男

様から、島の「祝い唄」の御披露は、会場を一体化させ、入所者さんの笑顔が弾けました。

統括役として、司会者として、胸が熱くなったシーンでした。

式典がフィナーレに近づくと、歴史を刻む時間を皆様と共有できた事への感謝の気持ちが一層湧いてきたと同時に、「1 年に渡り、あれほど構想と準備に集中してきた創立記念式典が、もうすぐ終わってしまう」の何とも言えぬ喪失感も湧き始めたのです。

そして、加納名誉園長から、「御礼のことば」で式典は締めくくられました。

式典後、入所者さんと御来賓皆様との心温まる笑顔の交流シーンがそこにありました。

今、某人気あさドラ放送終了後の〇〇ちゃんロス（ちょっと古い？）ならぬ式典ロスの心境にありますが、こうして、入所者さん、御来賓皆様と、歴史を刻めた事を心より感謝いたしております。

式典準備から閉式に至るまで改めて感じたことは、「一人だけで成し遂げられる仕事など何ひとつないこと」「人は、いつも誰かに支えていただいていること」です。

コロナ禍は、足かけ 4 年。人の生活感、価値観、仕事感までも大きく変えてしまい、以前、当たり前、普通に出来ていたことが普通でなくなっていました。

ただ、こうして小規模の手作りの式典ではありましたが、対面で人様に笑顔で会えるありがたさ、普通の日常を取り戻せつつある事へのありがたさ、職員皆が同じ目標に向く機会をいただいたありがたさを、還暦にして改めて感じております。

最後になりますが、この創立記念式典へ、思いを馳せていただいた全ての皆様に心より御礼申しあげたいと存じます。本当にありがとうございました。

元職員より頂いた胡蝶蘭





令和5年度 合同慰霊祭

令和5年11月2日、令和5年度合同慰霊祭が奄美和光園講堂にて執り行われ、ご遺族、行政関係者、入所者、職員総勢64名が参列しました。

式典では、はじめに参列者全員で405柱の御霊に黙祷を捧げました。次に、馬場園長の慰霊のことば、遺族代表のことばと続きました。遺族代表のことばでは「地域によっては未だ根強い偏見がある。心のバリアが完全に無くなる事が故人、遺族の思い」、また、「その人らしく過ごしていけるような社会になってほしい」との願いも込めたことばが心に残りました。

挨拶が終わると、園長、特命副園長、奄美市長、今年お亡くなりになられた入所者のご遺族、ほか、参列した方々が祭壇に向かって献花が行われました。入所者のみな

さんも神妙な面持ちで手を合わせていました。その後納骨堂へ移動し、御前に各自焼香を行い、御霊の安らかなご冥福を祈りました。

昨年の合同慰霊祭以降に亡くなられた入所者は6名。入所者は11名となり、平均年齢も87.64歳（R5.12.1現在）と高齢化が進んでいます。今年も感染対策を行いながらの開催でしたが、そのような中でも、合同慰霊祭だけは毎年開催しています。入所者と共に、先人から紡いできた歴史を感じながら、一日一日を大切に、入所者が豊かに過ごせますように、これからも職員一丸となって日々精進したいと思います。

福祉室 MSW 町田 亜希



年末の風物詩「ふるさとお楽しみ便」が贈られました

令和5年12月19日(火)、自治会事務所にて、毎年恒例のふるさとお楽しみ便贈呈式が行われました。

ふるさとお楽しみ便とは、毎年12月に、鹿児島県より全入所者へ県産品の詰め合わせが贈られるものです。

1995年に始まり今年で29回目となり、年末の風物詩となっています。

贈呈式に先立ち、塩田県知事の温かいお言葉を、鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課の黒崎課長が、園内放送で全入所者に対して代読されました。

続いて、贈呈式に入ります。

はじめに、ふるさとお楽しみ便が、黒崎

課長より入所者代表へ贈られました。

その後、県の方から入所者代表に、お楽しみ便に詰められた県産品が一つ一つ紹介され、入所者代表から「毎年楽しみにしています。ありがとうございます。」と、感謝が述べられました。

入所者代表は、少し緊張されていましたが、時折笑顔も見られました。

最後になりますが、このような心のこもった贈り物を毎年届けてくださる鹿児島県の皆様に感謝申し上げます。

福祉室 MSW 保 裕之



クリスマス会・イルミネーション

12月。街中ではジングルベルの歌や音楽が流れ、クリスマスシーズンの到来です！

和光園でも、不自由者棟にてクリスマス会が開催されました。

キャンドル隊の厳かな雰囲気から始まり、変装した男性スタッフによるハンドベルの合奏。入所者からは声に出して笑いが起こり、かわいいあまみ保育園児によるお遊戯の際には、「可愛いね～」と笑顔で園児に手を伸ばしている姿など、普段見られない様な弾ける笑顔が見られました。今年は入所者と共に曲に合わせて歌ったり合奏したりと、参加型にアレンジし、職員と共

に身体を動かすなど、楽しい時間もあっという間でした。

また、園内のあちらこちらに飾られたクリスマスイルミネーションでは、入所者と夜に見学に出掛け「キラキラしてきてきれい」「すごいね」などの声があり、暗夜の園内を温かく灯し、入所者の皆様と心和む穏やかなひと時を過ごしました。

また来年も、世界が平和で、皆様と元気にクリスマスが迎えられるよう願っております☆

看護サービス委員

病棟 看護師 龍 久美



ゆらいの郷（不自由者A棟） 改修整備工事について

7月より施工していた「ゆらいの郷（不自由者A棟）改修整備工事」が令和5年12月28日をもちまして竣工いたしました。

ゆらいの郷は身体要介護の入所者の方々が入居する、当園の最重要な建物です。中央にナースステーションがあって看護師・介護員が常駐し、周辺を入所者の居室が囲む、というような造作で、居室では入所者が日常の生活を過ごしています。イメージとしては居室型の介護老人施設に近いでしょう。

最重要建物ですが、近年は経年による設備の劣化が目立ってきました。給湯管の劣化が特に酷く、天井からの水漏れを複数回起こしていました。また、入所者の要介護度が大きくなり、浴場に設置されている銭湯風の掘込式浴槽も利用されなくなっていました。

これに対応すべく数年前より厚生労働本省へ工事予算申請していましたが、今年度ようやく予算が承認され、工事実施にたどり着きました。

工事内容は ①給湯配管の全面更新、②

空調機の全面更新、③換気扇の全面更新、④浴室の改修・機械式浴槽の設置、の4点でした。浴室は改修工事中も利用する必要があるので浴場を3区画に区切って1区画は常に使えるよう施工しました。空調機（エアコン）の更新のため入所者が現に居住している居室内での作業がどうしても必要でしたが、一時的に居室を移転してもらい、施工しました。浴場の掘込式浴槽は埋め立てて無くなり、その上に介護用の機械式浴槽（エレベートバス）が設置されました。

設備の更新が主の、地味な屋内工事でしたが、竣工した今、確実に入所者の皆様のQOL向上に寄与するものと確信しています。半年弱の工期の間、工事のために色々と制約を受けながら業務遂行していただいたゆらいの郷スタッフの皆様、そしてなによりも直接生活の場での工事でご迷惑をおかけした入所者の皆様方に感謝を述べて本稿の筆を置かせていただきます。

会計班長 岩橋 竜一





この度は永年勤続 30 年表彰を頂き、誠にありがとうございます。これもひとえに入所者の皆様をはじめ職員の皆様に支えられたおかげだと心より感謝申し上げます。

私は平成 5 年 10 月に入職しこれまでの日々を振り返ると、数えきれない程の思い出がよみがえります。うれしかったことや大変だったことなど、その度に多くの皆様に助けられ励まされながら今日を迎えるこ

とができていたことを痛感いたしております。

これからも人とのつながりを大切に、そして感謝の気持ちを忘れずに努力したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

不自由者棟 看護師 篤 朝子

今回、永年勤続 30 年表彰誠に有難うございます。

私は、平成元年 4 月 12 日付で賃金職員として奄美和光園に採用され、福祉作業班・福祉室・薬剤科で勤務し、平成 6 年 4 月 1 日付で看護課に定員職員として採用され、時がたつのは早いもので定員採用勤続 30 年を迎えることとなりました。今日を迎えることができたのは、温かく見守っ

てくださった入所者、先輩の皆さまや日々を支えてくださった同僚の皆さまのお陰と実感しております。

今後とも、皆さまの期待に添えるよう、お力添えを頂きながら、より一層仕事に邁進して参ります。引き続きご指導頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

治療棟 介護員 福崎 昭徳

この度は、30年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。これまで長年勤めてこられたのも、入所者の皆様を始め職員の方々に支えられたお陰だと思っております。

私が職員として採用された当時と今とでは、年月と共に大分様変わりしましたが、

これからも健康管理に気を付け入所者の皆様に少しでもお役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

治療棟 介護員 作下 志信

この度は永年勤続の20年表彰をいただきありがとうございます。私が長年勤務してこられたのも、入所者の皆様をはじめ支えてくださっている職場の方々のお陰だと感謝しております。

平成15年11月に採用され初めて訪れた奄美のことが今でも鮮明によみがえります。奄美の人の温かさに助けられて今日ま

でやってこられましたが、今後はなお一層入所者の皆様の思いに寄り添ったりハビリテーションを提供できるように精進していきたいと思っております。ありがとうございます。

理学療法士 山本 英樹

このたびは、20年勤続表彰をいただき、誠にありがとうございます。この日を迎えることができましたのも、入所者の皆様、上司、先輩、同僚など多くの方々の支えがあつてのことだと感謝申し上げます。

平成14年に賃金職員として入職し、20年間あっという間に過ぎたと感じていま

す。まだまだ至らないところばかりではありますが、これからも入所者の皆様が穏やかに過ごすことができるよう精一杯努めてまいりたいと思っています。今後とも、よろしくお願いいたします。

病棟 看護師 川畑 正子



ベスト口演賞をいただきました

昨年10月、広島にて行われた第77回国立病院総合医学会の口演発表「総合内科・総合診療」のセッションにおいて、「ビルダグリプチンによるDPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡の1例〈続報〉」を報告しました。

なぜ皮膚科医の私が「総合内科・総合診療」のセッションで発表したのか、疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれません。

本邦の糖尿病※患者は1000万人に上るとも言われ、DPP-4阻害薬は低血糖発作を起こしにくいため本邦で広く使われている薬剤の1種ですが、DPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡（表）を発症させることがあります。

糖尿病は患者数が多いことに加え、様々な合併症を生じることから、糖尿病専門医のほか、合併症の治療にあたる他の科の医師がガイドラインに則って処方している場合も多くみられます。そのため処方される先生方へのインフォメーションの意味を込めて発表したところ、座長の先生が「とても勉強になった」とベスト口演賞に選んでくださいました。

昨年の第76回国立病院総合医学会では管理栄養士の発表がベストポスター賞に選ばれました。来年以降もベストポスター賞/口演賞を受賞する職員が続くことを期待します。

園長 馬場 まゆみ

※糖尿病に対する誤解や偏見を払拭しようと、日本糖尿病協会などから糖尿病の新たな呼称を「ダイアベティス」とする案が発表されていますが、本稿ではわかりやすく糖尿病を用いました。

表

疫学	DPP-4阻害薬内服患者の約0.1%に発症（通常の水疱性類天疱瘡の発症頻度は0.0021～0.0066%） DPP-4阻害薬のなかでビルダグリプチンの発症頻度が最多である
臨床	内服開始から発症までの平均内服期間は16～24.1か月と長い 発症リスクは内服開始から約20か月後にピークを迎え、5年後まで高い 皮疹は紅斑に乏しく、水疱の小さな非炎症型が多い
予後	内服中止のみで軽快する症例もあれば、内服中止後に水疱性類天疱瘡に準じた治療を要する症例もある
他	PMDAから注意喚起のアナウンス（2023年7月） 日本皮膚科学会は類天疱瘡ガイドライン補遺版として「DPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡の治療指針」を発表（2023年2月）



副賞の複合筆記具



看護課よりハンドメイドの花束をいただきました（^o^）／

施設訪問お礼の手紙

(喜界中学校の1年生より頂いた原文のまま、掲載させていただいております。)

僕は、有川さんのハンセン病についての話を聞き、ハンセン病の事をもっとくわしく知ることができました。ハンセン病は治りよう法が見つかる前も見つかった後も偏見や差別はなくなり、施設にずっと入っていた患者さんもいた事にびっくりしました。

僕たちに貴重な話をしてくださり、ありがとうございました。

有川清四郎さんの話を聞いて、初めて知ったこと、いろいろと学ばせてもらいました。ハンセン病にかかった人は何十年も差別や偏見などをされ、しせつにずっといる生活をしていて、すごく悲しかったし、さびしさをがまんしていたと思います。

今はコロナウイルスがはやっています。最初の頃は、コロナになった人を差別、偏見をされていたと聞いたことがあります。された人は、どんな気持ちになるのか、一人一人が考えてほしいです。そして、偏見や差別がない社会をめざしたいです。

ハンセン病についての講話をしてくださった有川清四郎先生ありがとうございました。今回の話を通して、まだ差別などは、完ぺきに無くなってはいないというのを、改めて感じ、知りました。また、奄美和光園にあった、当時の生活用品などを見て、昔、どのような生活をしていたのか分かりました。

まだ差別や偏見などは無くなっていないけど、これからは、差別や偏見が無くなってほしいと、強く思いました。そして、自分自身も、差別などは絶対せず、みんなが平等にくらせたらいいと思いました。本当に、資料を使いながら分かりやすく、ハンセン病のことを教えてくださり、ありがとうございました。

奄美和光園で有川清四郎先生にハンセン病について教えていただき、私は差別や偏見がどれだけ人を傷つけてしまうのかを学ぶことができました。ハンセン病は他人にうつるわけでもないのに、勝手に決めつけられ、家族とはなればなれになり、会うことさえもゆるされなかった昔のかん者さんたちがどれだけ傷ついたかは、きっと私たちには想像できないほどのものだったと思います。最近まであった差別や偏見もまだ完全にはなくなったわけではなく、今もまだ苦しんでいる人がいるかもしれないと思うと心が傷みます。私はみんながハンセン病について理解を深め、差別や偏見がなくなり、みんなが平等にそして楽しく過ごせるような世界になることを願っています。

おいそがしいなか、ハンセン病について教えてくださり、本当にありがとうございました。

『第35回 ハンセン病 コ・メディカル学術集会』 に参加させていただきました

令和5年11月17・18日、静岡県御殿場高原ホテル（時之栖）で行われた、第35回ハンセン病 コ・メディカル学術集会に参加させていただきました。今回は、国立駿河療養所が担当となり、会長の北島信一所長を中心に職員一丸となって、企画・準備・運営を行われていました。4年ぶり対面での開催であり、意見交換会、施設見学会も実施されました。運営も含め全国の13のハンセン病療養所から、約200人の参加者が集い、会場は盛り上がっていました。

演題発表は、口演発表39演題、ポスター発表14演題あり、当園からも下記の3演題の発表がありました。

【和光園の演題および発表者】

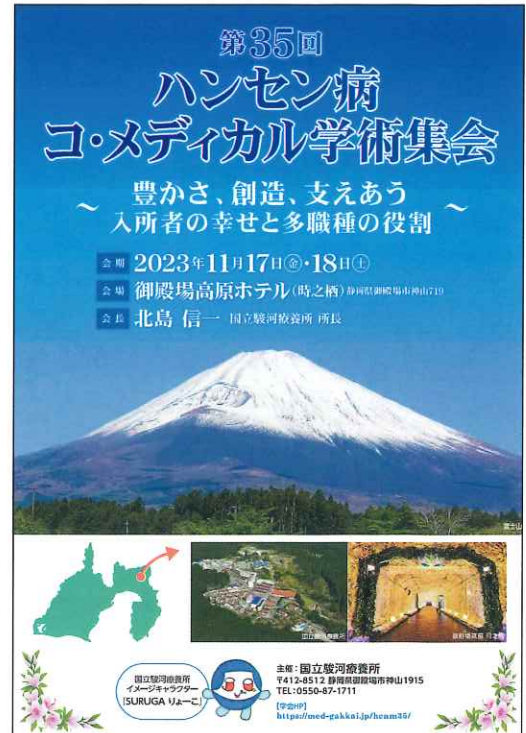
ハンセン病療養所 A 園における入所者と家族のつながりを支援する看護師の役割	肥後加奈美 N s
自舎生活を強く要望する入所者の思いを支援する看護職員の想い	川畑 正子 N s
奄美和光園の認知症予防対策 ～ABC認知症スケールを導入して～	二木 琢也 O T

ハンセン病療養所全体として、平均年齢が超高齢化となった事、ハンセン病療養所特有の課題も共通しているため、演題発表の内容は、日々の入所者の方への関り・医療・介護などの参考となりました。また、発表後の質疑応答も通常の学会に比べ、積極的・具体的に行われている印象でした。私自身も、発表後に他施設の方から多くの声掛けや質問を頂きました。

18日午後の駿河療養所の施設見学会では、職員・入所者皆さんでお出迎え頂き、駿河療養所の歴史や施設の案内をしていただきました。富士の裾野の山間部にある駿

河療養所の気候は、奄美大島とは全く違い、富士山もすっかりと雪化粧をしていました。また、傾斜がある土地であり、療養所内移動のための定期的な巡回バスがあることに驚きました。奄美和光園では『ハブ・亜熱帯気候による高温、多湿』、駿河療養所では『療養所内の傾斜・凍結による転倒』など、その土地ならではの問題点があることにも気付きました。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

作業療法士 二木 琢也





駿河療養所から見える富士山

令和5年度 国立ハンセン病療養所介護員研修に参加して

令和5年度国立ハンセン病療養所介護員研修が12月7日会議室にて、全会場を繋ぐリモート形式で開催されました。全国で13園31名の研修生が参加し、各園グループワークで話し合った内容をもとに発表し、発表以外の研修生は発表内容や資料を見ながら頷いており共感する部分が多くあるように感じました。発表後は各施設活発な質疑応答があり、時間超過する程熱のこもった研修となりました。

どの施設にも共通する課題は「情報共有や伝達の重要性和難しさ」「コミュニケーションと連携の大切さ」が多く、当園においてもハンセン病療養所で働く介護員の悩みや課題は共通していると認識する事ができました。

問題解決のためには多職種を含む多くの職員が連携する必要がありますが、多数の職員が関わる時の情報伝達の難しさ、コミュニケーションの難しさが課題となっています。和光園において入所者の高齢化に伴い、一人一人の思いや願い、特に今を大

切にした介護をしていく事が重要であると感じています。そのためにも私達介護員は入所者の尊厳を大切にし「今何を望んでいるのか、必要としているのか」を相手の立場にたち思いを汲み取り、入所者が自律し思いに沿った日常を過ごしていけるよう支援していく必要があります。

今回の研修で他施設も同様の課題を抱えながら、ケアを通し入所者によりよい生活支援を目指しており、全国の療養所で取り組む内容や目指すべき方向が同じであると学ぶことができました。

最後に私達研修生2名は「入所者、職員から得られた情報を整理しケアプランをアップデートし自ら発信します」を行動計画の決意として、入所者へのよりよい生活支援に繋げていきたいと思っています。

不自由者棟 介護員 黒木 貴雄
中山 照美



令和5年度 第2回 園内感染予防対策研修会

「テーマ：冬季に流行する感染症
(インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルス)」

I C T (Infection Control Team: 感染対策チーム) 委員会では園内で起こる様々な感染症から入所者さんや職員の安全を守るために活動を行っています。その一つに園内感染予防対策研修会があり、冬季に流行する感染症というテーマで全職員を対象に研修会を開催しました。この冬は例年より早期にインフルエンザが流行の兆しを見せ始め、新型コロナウイルスも感染拡大が懸念されていて、ノロウイルスによる食中毒と合わせて、家庭でも役立つような情報と思いながら資料作成し研修を行いました。

冬季は空気が乾燥し、ウイルスにとっては快適な環境となる事、水分摂取量の低下や空気の乾燥により人間にとっては免疫力低下につながる事、各ウイルス感染症の主

な症状、どのくらいの期間感染力があるのか、手洗いや環境衛生、マスク、換気の重要性、吐物処理の方法等、動画や和光園で実際にあった事例もあわせて話をさせていただきました。毎年、内容としては同じようなことが言われてはいますが、繰り返すことで対策を身に着けることが重要です。

研修を受けた方々からは「動画があっすぎてわかりやすかった」との声もいただき、意義があったと感じています。今後も園内に感染症を持ち込むことが無いよう、入所者さんが安心して生活することができるように努めてまいります。

臨床検査技師長 安藤 陽一郎



令和5年度第2回園内感染予防対策研修

冬季に注意すべき感染症
(インフルエンザ、新型コロナウイルス、感染性胃腸炎)
(特にノロウイルス)



ICT委員会
検査科 安藤陽一郎



吐物処理について



給食棟 食缶洗浄室 訓練火災発生!!

令和5年12月7日13:30給食棟食缶洗浄室から訓練火災が発生しました。火災発見、初期消火、園内放送、消防通報、担送1名、護送2名の模擬入所者の避難誘導、重要物品搬出の訓練とし、消防署職員も2名お越し頂き厳しくチェックをして頂きました。今回の訓練では、屋外消火栓を連結して、消火栓から離れた場所での火災にも対応できるよう、シナリオに盛り込みました。

いざ、訓練が始まると、消火班のメンバーを中心に、テキパキ消火栓を連結させ、皆で協力して模擬火災を鎮火させ、予定よりも早く本部へ報告まで完了できました。また、模擬入所者の避難に関しても、担送1名は安全を確保した搬送を心掛け、護送2

名も速やかに避難場所へ搬送できていました。

消防署職員からの講評では、「統率が取れた素晴らしい訓練でした」と良い評価を頂きました。また、園長からも、人名救助を優先する訓練ができていたと評価を頂きました。

講評後も、実際に火を起こして消火器の訓練をしたり、屋外消火栓で放水訓練をしたり、とても有意義な消防訓練になりました。今後も入所者の皆さんをお守りするため、定期的に訓練を実施していきますので、ご協力をよろしくお願いします。

庶務班長 毛利 安則



火災発見



初期消火



消防通報



屋外消火栓を連結して放水



模擬入所者の避難誘導



本部



講評



消火器の訓練

看護学校1年生基礎看護学実習を受け入れて

令和5年12月12日・13日の2日間、奄美看護福祉専門学校看護学科の1年生2名が基礎看護学実習を行いました。昨年度より、不自由者棟と病棟で1年生の実習生を迎え実施しています。

実習の目的は、「看護が行われている場を知り、看護師の役割と看護の実際を理解する」です。実習担当者として、スケジュールを立て指導案を作成し受け入れ準備を行いました。1年生は初めての实習なので、緊張がほぐれるよう笑顔で心がけ一つひとつ理解できたか言葉かけをし関わるようにしました。短期間の実習ですが、緊張しながら入所者のケア見学やコミュニケーションを実施し学びを深めている様子でした。

入所者の方々は、初々しい学生を前に普

段の思いを沢山語って下さり、気遣われる場面も見られました。学生からは、「患者様の状態を観察し、言えない事も汲み取って援助を行うことが大切だと感じた」「コミュニケーションをとることの難しさを感じた。患者様の気持ちや変化に気付ける看護師になりたい」などの感想が聞かれました。実際の場面を体験し入所者の方とコミュニケーションをとることで、学びを深め理想とする看護師像を描くことができたようでした。

数年後、患者様に信頼される立派な看護師になっていることを楽しみにしています。

病棟 看護師 川畑 正子



NST News Letter

No.28

NST（栄養サポートチーム）では入所者の栄養状態を維持、改善するために多職種の医療スタッフで活動をしています。活動の中ではいわゆる「低栄養」と呼ばれる状態の方をみることがありますが、近ごろは医療・介護の現場だけでなく、テレビな

どでも「フレイル」や「サルコペニア」といった低栄養に関する言葉をよく耳にするようになりました。そこで今回は「低栄養」について改めてお話ししたいと思います。

低栄養とは

人は食べ物を摂取し、それらに含まれる栄養素をエネルギーや筋肉、皮膚などに作り変えることで身体を維持しています。維持に必要なエネルギーやたんぱく質の量は性別や年齢、活動量などによって異なりますが、身体の必要量に対してそれらの栄養が不足している状態を「低栄養」といいます。

一般的には食事量が落ちることで低栄養となることが多いですが、実は食べ方（食べる量、食べるもの）によっては食べているのに低栄養を招くこともあります。普段の生活の中で以下の点に思い当たることがあれば、注意が必要です。

《チェック：食事編》

- ✓ 以前に比べて食欲が落ちている。
- ✓ 生活リズムの乱れなどで食べる回数が減ってきた。（欠食がある）
- ✓ 噛む・飲み込む力が落ちて1回の食事で食べる量が減ってきた。
- ✓ 偏食がある。
- ✓ 各食事でたんぱく質（肉、魚、卵、大豆、乳製品など）を食べないことがある。

低栄養状態になると、身体を動かすのに必要なエネルギーを生み出すために自分の身体を分解する反応が起こります。その結果、体重や筋肉が減少、筋力が低下して疲れやすくなります。そのことがさらなる活

《チェック：症状編》

- ✓ 体重が減った。
- ✓ 見た目が細くなった。もしくは痩せたといわれることが多くなった。
- ✓ 元気が出ない。力が入りにくい。
- ✓ 風邪をひきやすくなった。また、治るのに時間がかかる。
- ✓ 傷が治りにくい。
- ✓ 下半身や腹部がむくみやすい。

動量や食欲の低下を招き、悪循環に陥ることがあります。日常生活への影響も大きいので、心当たりがある方はぜひ食事内容を見直しましょう。

食事のポイント

日本食は「一汁三菜」と言われ、栄養バランスの整いやすい食事です。汁物は塩分の過剰摂取につながりやすいので1日1杯程度にすることをお勧めしますが、食品

構成は参考にすると良いでしょう。また、手作りにこだわる必要もありません。現在は栄養バランスや成分に配慮した食品やお弁当が色々お店に売っているので、上手に

利用すると良いでしょう。

最近は食品価格の値上がり続きでどうしても安価な食品に手が伸びがちですが、健康な生活のため、バランスを意識した食品選択を心掛けましょう。



栄養係長 秋山 優太

令和5年度 診療統計

	外来診療					再掲		入院診療	BIO	
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均 (人)	診療実日数 (日)	紫外線療法 (件)	手術/生検 (件)	延患者数 (人)	導入	維持療法
11月	46	174	220	22.0	10	36	0	0	1	2
12月	63	207	270	22.5	12	41	11	0		1
1月	40	178	218	21.8	10	42	5	4		

新人紹介

保育士 清原 のぞみ (きよはら のぞみ)

11月より保育園で働かせて頂いています。入職して2カ月が経ちますが、少しずつ仕事にも慣れてきました!! 保育園の先生方は、とても優しくていねいに教えてくださり、子どもたちは、とてもかわいく、毎日楽しく仕事をさせて頂いています。

まだまだ覚える事は、たくさんありますが、楽しく子どもたちといろんな事を一緒に体験できたらいいなと思います!! 頑張りますので、よろしくおねがいします。



事務助手 大野 優生 (おおの ゆうな)

和光園福祉室の医事係として入職しました大野と申します。休日は、子供の体力消耗の為に公園をはしごしています。医事係では、分からない事がたくさんありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがよろしくお願い致します。



人事異動

(令和 5 年 11 月 1 日～令和 6 年 1 月 31 日)

R 5. 11. 1	清原 のぞみ	保育士	採用 (期間業務職員)
11. 13	大野 優生	事務助手	採用 (非常勤職員)
R 6. 1. 31	直原 千里	看護師	退職

和光園日誌

(令和 5 年 11 月 1 日～令和 6 年 1 月 31 日)

R 5. 11. 2	合同慰霊祭
11. 7～ 8	給与簿監査
11. 16	医療施設立入検査
11. 17～18	第 35 回ハンセン病コ・メディカル学術集会
11. 19	電気保安点検
11. 29	第 15 回アニマルセラピー
11. 30	創立 80 周年記念式典
12. 4	園外ショッピング
12. 7	消防訓練
12. 12～13	奄美看護学校実習
12. 19～20	会計監査指導
12. 19	ふるさとお楽しみ便
12. 19～20	ゆらいの郷 (不自由者 A 棟) 改修整備工事完成下検査
12. 21	クリスマス会
12. 27	第 16 回アニマルセラピー
12. 28	仕事納め式
R 6. 1. 4	仕事始め式
1. 10	永年勤続表彰
1. 18	園外ショッピング
1. 25	第 17 回アニマルセラピー

編

集

後

記

令和 5 年 11 月 30 日に、「国立療養所奄美和光園 創立 80 周年記念式典」が無事に挙行されました。この約 1 年間、計画から準備、当日の対応に至るまで尽力した職員の皆様、本当にお疲れ様でした。また、ご来賓の皆様や関係者の皆様のご協力のもと、記念式典が無事に執り行われましたことを、心より感謝申し上げます。入所者さん、一人ひとりの心に刻まれた良い記念式典だったと感じています。

令和 6 年となり、奄美和光園にとっても、また新たな 10 年のスタートです。創立 90 周年を目標に、これからも職員一同、入所者さんの安全な暮らしを守れるよう、努力して参りたいと存じます。引き続き、奄美和光園を、よろしくお願いいたします。

編集委員 毛利 安則